

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人優和

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

我が子に遺すべきは自分の生き方 寺田 一清 (不尽叢書刊行会代表)

1. 男はいかに生きるべきか。「主体性のある人間になれ」と森信三先生は説かれています。そして、そのためにはまず一つは、腰骨の立った人間になるということです。主体性とは、平たくいえば性根とか根性とかいわれるもので、性根づくりの秘訣は「立腰」のほかはないというのが森先生の持論でした。二つ目は、生活規律を持つこと。つまり、日々の生活の中で自分はこれだけは守りぬくというものを持つことです。
2. いつの頃からか、父親の権威が失墜したといわれるようになりました。森先生は「父親は息子に対して一生のうち三度叱るか、それとも一度も叱らないか、どちらかに肚を括らなければならない」と説かれています。森先生は、我が子の人間教育、とりわけ基本としての躾の責任は、その9割までは母親にあり、父親の役割は、自分の人生観に基づいて人間としての行き方の方向を示すこと、言い換えれば子供に生き方の種まきをするところにあると説かれています。
3. 人間の一生というものは、一難去ってまた一難、山また山の連続といえます。男が我が子に遺すべきものは、お金ではありません。自分の生き方です。生き方の流儀こそが何よりの遺産となるのです。

(参考:「致知」2010年7月号)

経営者のための経済学

アフリカとBRICs諸国の貿易額が拡大

1. 南アフリカ共和国で、今、経済構造が大きな転換点を迎えている。昨年、輸出・輸入ともに、中国が最大の貿易相手国として躍り出たことが明らかになった。南アの主要貿易国はこれまで、米国、日本、英国、ドイツの4カ国だった。特に日本は輸出先として2008年まで、トップの座を米国と争ってきたが、先進国が景気後退に陥る中で、一気に中国が浮上した格好だ。
2. アフリカ大陸全体(人口9億人超)で見ても、中国向け輸出は1992年時点で10億ドル(約930億円)未満だったが、2008年には540億ドル(約5兆220億円)以上に拡大し、米国に次ぐ第2位。中国だけではない。実はインド、ブラジル、そしてロシアという中国以外のBRICs諸国との関係も深まっている。2000~2008年までに、アフリカとBRICsの貿易額は約8倍に拡大。その3分の2は中国だが、インドとの貿易がこの間に年平均23%増を示すなど、ほかの国も存在感を高めている。

(参考:「日経ビジネス」2010年4月19日号)

経営者のための営業学

ヒット商品の源泉は顧客の声(ユニクロ)

1. ユニクロは、なぜかくもヒット商品を連発することができるのか。柳井正会長兼社長は、「商品は1人の天才によって作られるものではない」と話す。では、いったいどうやってヒット商品は生み出されているのか。同社の商品開発の要諦は、大きく二つある。第一に、顧客の声に愚直に耳を傾けて商品開発につながっている。同社には、店舗やインターネット、電話などを通して1カ月に約3000件の顧客の「生の声」が届く。顧客の不満にこそ商品開発のヒントがあるのだ。ヒットさせようと狙っているわけではない。顧客の声を一つひとつ商品に反映させ積み重ねていくことで、結果的にヒット商品が生まれる。
2. 商品開発のもう一つの要諦は、素材メーカーである東レとの戦略提携だ。原料・原糸から両社が一体となって開発することで、他者にマネのできない商品開発につながっている。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2010年5月29日号)

古典に学ぶ

「修身教授録」・語録50選(その9)

1. 人間は一生の間に、少なくとも一度は、その人の「桜町時代」がなくては、だめである。(桜町時代とは尊徳翁の苦難時代のこと)。
2. われわれ人間も敬の一念を起こすに至って、初めてその生命は進展の一步を踏み出す。
3. 家庭というものは、人間形成の道場である。
4. 幸福とは、自分の現在の生活の意味をかみしめ味わうところに生ずる感謝の念に他ならない。
5. 金持になれなくとも、金に困らぬ人間になるように。そのためには「基礎蓄積」が何よりたいせつ。

(参考:森 信三「修身教授録抄」:致知出版社)